

2019年度 第2四半期決算概要

2019年11月8日
デンカ株式会社

1. 業績

(単位:億円)

	2019年度 第2四半期実績 (4-9月)	2018年度 第2四半期実績 (4-9月)	増 減
売 上 高	1,920	1,983	△ 64
営 業 利 益	153	146	7
経 常 利 益	145	150	△ 4
親会社株主に帰属する当期純利益	109	114	△ 5

	2019年 通期予想 (4-3月)	2018年 通期実績 (4-3月)
	4,000	4,131
	350	342
	320	328
	240	250

2. 総括(前年同期比)

- ・当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、昨年度より5か年の新経営計画「Denka Value-Up」をスタートしました。その3つの成長ビジョン「スペシャリティーの融合体」「持続的成長」「健全な成長」に基づき、2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益向上に注力しております。
- ・当第2四半期は、球状アルミナ、アセチレンブラック等車両電動化関連製品の販売が好調に推移し、デンカ生研株式会社の検査試薬やインフルエンザワクチンの販売も昨年を上回りました。その一方で、原材料価格下落に応じたスチレン系製品の販売価格の改定に加え、クロロブレンゴムや半導体関連製品(高機能フィルム・球状溶融シリカファイバー等)の販売数量が減少しました。このため、売上高は前年同期に比べ64億円減収の1,920億円(3.2%減)となりました。
利益面では、営業利益は前年同期比7億円増益の153億円(5.1%増)となりましたが、経常利益は145億円(前年同期比2.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は109億円(前年同期比4.7%減)と、それぞれ減益となりました。
- ・第3四半期以降は、アセチレンブラックや球状アルミナなど車両電動化関連製品は好調な販売が続く見通しですが、一方で、期初予想では第3四半期から回復すると見ていた半導体分野の需要回復が年明け以降となり、また、クロロブレンゴムの販売も低調な状況が続くと予想しております。このため、通期予想営業利益を、期初予想の380億円から350億円に修正しましたが、当社グループは、引き続き3期連続の最高益更新を目指すとともに、経営計画「Denka Value-Up」に基づく諸施策を、手を緩めることなく積極的に進めてまいります。

3. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増 減	
投 資	設備投資	162	143	19
	M & A 他	27	1	26
	計	189	144	45
減価償却費	110	113	△ 3	
研究開発費	73	78	△ 5	
有利子負債残高	1,233	1,215	18	

	2019年 通期予想	2018年 通期実績
	450	327
	450	1
	450	328
	230	229
	160	146
	1,200	1,121

	2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績
為替レート [円/\$]	109.2	109.5
国産ナフサ [円/kl]	42,900	50,550

4.セグメント別状況(前年同期比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、スチレンモノマープラントの非定修年であったことに加え、デンカシンガポール社のスチレン系樹脂のспредは改善しましたが、クロロプレンゴムの販売数量が減少したことなどにより、減益となりました。
第3四半期以降も、クロロプレンゴムの販売数量は前年を下回る見通しであり、通期でも減益を見込みます。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、製品の価格改定が進んだことなどにより増益となりました。
第3四半期以降も、価格改定が寄与し、通期でも増益を見込みます。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、球状アルミナ、高純度導電性カーボンブラック等の車両電動化関連製品の販売が伸長したものの、生産体制強化に伴う固定費負担の増加に加え、電子部品・半導体関連分野向けの高機能フィルムや球状溶融シリカフィルターの販売が前年同期を下回り、減益となりました。
第3四半期以降は、車両電動化関連製品の販売増加が続くことに加え、半導体関連製品の需要も年明け以降には緩やかに回復すると想定していることから、通期では増益を見込みます。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は概ね前年同期並みとなりましたが、合繊かつら用原糸”トヨカロン”や、食品包材用シートおよびその加工品などの販売が前年同期を下回り、減益となりました。
第3四半期以降は工業用テープの販売は前年を上回る見込みですが、通期でも減益を見込みます。
- ・ライフイノベーション部門は、デンカ生研株式会社の検査試薬の販売が増えたことに加え、インフルエンザワクチンの出荷が早まったことなどから増益となりました。
通期でも、インフルエンザワクチンや検査試薬の販売が前年を上回る見通しであることから、増益を見込みます。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増 減	2019年 通期予想	2018年 通期実績
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	787	890	△ 104	1,600	1,792
	営業利益	69	74	△ 6	125	142
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	269	261	9	560	548
	営業利益	3	△ 1	4	10	△ 3
電子・先端 プロダクツ	売上高	335	329	6	710	671
	営業利益	58	59	△ 1	130	118
生活・環境 プロダクツ	売上高	186	196	△ 10	380	390
	営業利益	△ 2	2	△ 4	5	9
ライフ イノベーション	売上高	150	124	26	370	341
	営業利益	25	5	20	70	63
その他 消去差	売上高	192	183	9	380	388
	営業利益	2	7	△ 6	10	13
合 計	売上高	1,920	1,983	△ 64	4,000	4,131
	営業利益	153	146	7	350	342

連結売上高増減	売上高				
	2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増 減	販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	787	890	△ 104	△ 70	△ 34
インフラ・ソーシャルソリューション	269	261	9	11	△ 2
電子・先端プロダクツ	335	329	6	4	2
生活・環境プロダクツ	186	196	△ 10	△ 1	△ 9
ライフイノベーション	150	124	26	△ 2	27
そ の 他	192	183	9	-	9
合 計	1,920	1,983	△ 64	△ 59	△ 5

連結営業利益増減	営業利益					
	2019年度 第2四半期実績	2018年度 第2四半期実績	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	69	74	△ 6	△ 70	△ 22	86
インフラ・ソーシャルソリューション	3	△ 1	4	11	△ 2	△ 5
電子・先端プロダクツ	58	59	△ 1	4	1	△ 7
生活・環境プロダクツ	△ 2	2	△ 4	△ 1	△ 4	1
ライフイノベーション	25	5	20	△ 2	19	3
そ の 他	2	7	△ 6	-	0	△ 6
合 計	153	146	7	△ 59	△ 6	73